

他称詞に関する日本語、朝鮮語、中国語の対照研究

A Comparative Analysis of Terms Referring to Third Persons in Japanese, Korean and Chinese

宋善花[†], 山田綾乃^{††}

Shanhua SONG, Ayano YAMADA

Abstract This article investigates the conditions of use for terms referring to third persons in Japanese, Korean and Chinese and discusses how their occurrence is influenced by syntax and context. The frequency of use of such personal terms is shown to be highest in Chinese, lower in Korean, and lowest in Japanese. In all three languages, the introduction of a previously unknown “participant role” is conducive to the use of a personal term; and the presence of certain particles in Japanese and Korean has an effect of favoring the use of a demonstrative subject as a base for focalization and topicalization. These particles, along with the terms referring to third persons, tend to be used in cases where the reference to the third person is emphatic. Circumstances conducive to the non-use of personal terms in Japanese and Korean, are a high dependence on context, a low need to specify the object of a transitive verb, and the presentation of a passage of quotation ahead of the third person speaker to whom it is attributed.

1. はじめに

他称詞は、話し手と聞き手以外の話題の人物（第三者）を指示することばのすべてを言う。他称詞は、話し手自身を指し示す自称詞と聞き手を指し示す対称詞とともに人称詞全体を構成している。また、他称詞は「彼」「彼女」のような三人称代名詞、「母」「社長」のような親族名称・地位名称、「あの 人」のような指示詞型などに分けられ、そのバリエーションが多彩である。話題の人物である第三者は会話の直接参加者でなく、これを指し示す他称詞は自称詞と対称詞ほど待遇性が強くないのは確かである。そのため、他称詞に関する研究が自称詞・対称詞ほど多くないのも現状である。しかし、同じ条件下で他称詞が明示される言語もあれば省略される言語もある。各言語の構文的特長やコンテキストの働きが他称詞の使用実態にどのような影響を及ぼすのか、また話し手が第三者を言語的にどのように捉えるかを分析することは、他称詞だけでなく人称詞の使い方の全般を明らかにする上で重要である。

これを踏まえて、本稿ではまず日本語、朝鮮語、中国語における他称詞の使用実態を調べ、各言語の構文と他称詞の使用との関わりについて考察する。なお、指示対象の制限という社会言語学的視点からの分析も三言語の他称詞の使用実態を明らかにする上で重要だと考えられるが、これに関しては別稿に譲りたい。

2. データの収集

本稿では、三言語使用の会話文における他称詞の分析に焦点をおく。会話文における他称詞の使用を明らかにするために、日常生活の対話にきわめて近いと考えられるテレビドラマを用いて、手作業の文字おこしにより有効データを収集し、分析する。データを収集したテレビドラマは、原作言語が朝鮮語で、翻訳言語が日本語と中国語の作品である。なお、日本語と中国語は吹き替え版を用いる。

データを収集したテレビドラマの作品とそれぞれの回は次のとおりである¹⁾。

† 東南大学 外国語学院日本語学科 (南京市)
†† ECC 講師 (名古屋市)

① 「秋の童話 kaul tonghwa」²⁾ (第 10-11 話) 計 110 分
② 「夏の香り yelum hyangki」(第 13-14 話) 計 110 分

- ③「パリの恋人 phali-uy yenin」(第 13-14 話) 計 90 分
 ④「冬のソナタ kyewul yenka」(第 1-4 話) 計 220 分

なお、日本語の三人称代名詞「彼 / 彼女」が恋人という特別の意味として使われた場合は有効データから除外する。

まず、テレビドラマに表れた日本語、朝鮮語、中国語の他称詞の形式とその出現数(延べ数)を表 1 に示す³。

表 1 三言語における他称詞の形式と出現数

種類	言語	日本語版	朝鮮語版	中国語版
		三人称代名詞	単数 21 (3.6)	13 (2.2)
	複数	0 (0.0)	2 (0.3)	21 (2.8)
親族名称		129 (22.4)	154 (26.0)	143 (18.8)
地位名称		46 (8.0)	50 (8.4)	54 (7.1)
名前		320 (55.7)	315 (53.3)	289 (38.2)
指示詞型		35 (6.1)	28 (4.7)	23 (3.0)
その他		24 (4.2)	30 (5.1)	23 (3.0)
計		575 (100.0)	592 (100.0)	758 (100.0)

()内はパーセンテージ

表 1 から分かるように、三言語間で、他称詞の諸形式の中で使用頻度の差が最も大きいのは三人称代名詞で、その用例数はそれぞれ日本語は 21 例、朝鮮語は 15 例、中国語は 226 例である。一方、名前(＋呼称接尾辞)の用例数を見ると、日本語と朝鮮語で 320 例と 315 例、中国語では 289 例で、逆に中国語よりも日朝両言語の方でより多く用いられることが分かる。そして、日本語、朝鮮語、中国語における他称詞の総出現数は、それぞれ 575 例、592 例、758 例で、三言語間の使用頻度の差は、宋(2011)によれば、自称詞・対称詞ほど大きくないことが分かる⁴。これはどの言語でも、会話の直接参加者でない第三者をより明確に指示する必要があり、他称詞が省略されにくいことによるものと考えられる。なお、日朝両言語における他称詞の使用頻度には殆ど違いがなく、この点での両言語の類似性が窺える。

また、日本語、朝鮮語、中国語の他称詞の使用状況を調べていくと、三言語の他称詞が有形(人稱詞が省略されない場合)か無形(人稱詞が省略される場合)かによっていくつかの使用パターンに分けられる。それらの使用パターンの用例数及び比率を表 2 に示す。

表 2 に示したように、他称詞の七つの使用パターンのうち、

比率の最も高いのは、三言語とも有形の使用パターン(540 例)で、全体の 7 割近くを占めている。

表 2 三言語における他称詞の使用パターン

日本語	朝鮮語	中国語	計
有形	有形	有形	540 (69.6)
無形	無形	有形	154 (19.8)
無形	有形	有形	43 (5.5)
有形	無形	有形	20 (2.6)
有形	無形	無形	9 (1.2)
有形	有形	無形	6 (0.7)
無形	有形	無形	4 (0.5)

()内はパーセンテージ

次に多いのは、日本語、朝鮮語のいずれも無形であるのに対し、中国語では有形の使用パターン(154 例)で、全体の約 2 割を占めている。この二つの使用パターンを合わせると全体の約 9 割を占めており、使用頻度がきわめて高いので、本稿ではこの二つの使用パターンについて考察を進めていきたい。

3. 三言語とも有形の場合

会話では、「私」や「あなた」などの自称詞或いは対称詞を明確に言わなくてもコミュニケーションが成り立つことが多い。しかし、第三者はあくまでも話し手と聞き手の話題の人物で、第三者を明記しない場合、その指示対象は会話直接参加者の話し手もしくは聞き手と解釈しうる場合があり、会話がスムーズに行われないおそれがある。

表 2 が示すように、他称詞の諸使用パターンのうち、用例数が最も多いのは三言語とも有形である使用パターンである。このことは、中国語に比べて主語や目的語が省略されやすい日朝両言語でも、他称詞が省略されない用例が多数あることを示す。指示を明確にすることが人稱詞の最も基本的な機能であることは言うまでもない。しかし、有形を取ることに、指示対象への指示を明確にする以外に、他の意味合いもあるのではないだろうか。ここでは、構文的要因やコンテキストが三言語における他称詞の使用にどのような影響を及ぼしているかについて考察し、その共通点を探りたい。

3・1 未知要素の導入

第三者は、話し手と聞き手の会話の中の話題人物であり、

どの言語においても、原則上、第三者への指示つまり他称詞を省略することができない場合がある。それは、話し手が、話し手及び聞き手以外の第三者を会話中に初めて導入する場合で、第三者の存在を提示しなければならない状況である。第三者への指示を明確にしない場合、文中で指している人物が会話の直接参加者である話し手もしくは聞き手であると誤解される恐れがあるからである。こうした場合、各言語間の指示表現の特徴により、他称詞の形式に相違はあるが、他称詞を省略することができないという点では、三言語とも共通している。

このように、未知の第三者を会話の中に導入するにあたり、日本語、朝鮮語、中国語とも有形を取っている用例は、343例ある。これは、他称詞における有形の使用パターン540例のうち、63.5%を占めている。

3・2 助詞の機能

日本語・朝鮮語と中国語は言語体系が異なっているため、様々な文法現象においても違いが見られる。その中でも、助詞の種類や機能の相違は顕著なものがある。アルタイ型言語である日本語と朝鮮語には、体言に接続する助詞として、主に「が」、「を」のような格助詞、「は」のような提題助詞などがある⁵。この類の助詞は、種類が豊富で且つその機能も発達している。その一方で、中国語の助詞はその殆どがテンスや状態を表すものであり、体言に接続する助詞は所有格を表す「的 de (の)」など少数にすぎない。ここでは、主に日朝両言語の助詞の機能について考察したい。

また、上原(1999)では、小説「最後の一葉」の英文原作版とその日本語翻訳版を資料とし、英語で代名詞が使われていて、日本語で有形になっている例をとりあげ、日本語における助詞の役割について述べている。助詞「は」は、話題の提示や対比の意を表しているのに対し、「が」は指示対象を焦点化する役割を果たしており、指示対象を取り立てたり焦点化したりして、第三者への指示を強調しているという。上原(1999)では、朝鮮語の助詞について触れていないが、朝鮮語の助詞は日本語の助詞と多くの共通点を有している。

まず、日本語と朝鮮語での格助詞「が」と「이/가 i / ka」について見たい。これらの助詞は、名詞の後に付き、主格を表すと同時に、焦点化の役割も果たしている。例えば(1)を見よう⁶。

(1) キョンハ・女→シネ・女 (ウンソ・女 / 娘)

K : 은서가 준서랑 헤어졌니?
unse-ka cwunse-lang heyecyessni?
ウンソが ジュンソと 分かれた
J : ウンソ가 ジュンソと別れたって言うの?

C : 恩熙 她 跟 俊熙 已经 分手 了?
ウンソ 彼女 と ジュンソ すでに 分かれる (助詞)
(秋の童話)

(1)は、第三者(ウンソ)を焦点化する用例である。(1)の前の会話を見ると、聞き手(シネ)の発話の中で既に「ウンソ」が示されているため、日朝両言語では、「ウンソが」と「은서가 unse-ka (ウンソが)」が省略されても非文にはならない。しかし、ここでは他称詞の主格を再度繰り返すことで、第三者への指示を強調し、話し手の第三者の行動(様々な障害の前でも決してジュンソと別れようとしなかったウンソが諦めてしまったこと)に対する隠せない驚きを表している。一方、中国語では、文面上指示を強調しているかどうか判断しにくい、話し手の発話時のイントネーションなどによって判断されることが多い。

日朝両言語の「が」「이/가 i / ka」格は、他人を排除し指示対象を焦点化する機能以外にも、(2)のように従属節でも省略されにくい特徴を持っている。

(2) ジンスク・女→ユジン・女 (ジュンサン・男 / 同級生)

K : 난 정말 준상이가
na-n cengmal cwunsangi-ka
私は 本当に ジュンサンが
살아서 돌아온 줄 알았다니까.
salase tolao-n cwul alasstanikka.
生き返ったかと 思った
J : 私、ジュンサンが生き返ったのかと思った。
C : 当时 我 真的 以为是 俊尚
あの時 私 本当に 思う ジュンサン
活着回来 呢。
生き返る <感嘆詞> (冬のソナタ)

(2)は、話し手(ジンスク)が、10年前に亡くなった同級生に非常に似ている第三者(ミンヒョン)と対面した後の発話である。例文を見ると、「私~思った」が主節で、「ジュンサンが生き返ったのかと」は従属節として主節の目的語の役割を果たしている。また、主節の主語は一人称代名詞の「私」で、従属節の主語は他称詞の「ジュンサンが」である。朝鮮語文と中国語文でも、主節の主語は一人称代名詞の「난 nan (わたしは)」と「我 wo (わたし)」で、従属節の主語はそれぞれ他称詞の「준상이가 cwunsangi-ka (ジュンサンが)」と「俊尚 junshang (ジュンサン)」である。このように、主節の主語と従属節の主語が同一人物を指示していない場合、従属節の主語は省略しない傾向が強い。ここで、従属節の主語が省略され無形だとすると、表そうとする本来の意味とずれ

が生じる恐れがあり、コミュニケーションに支障をきたしかねない。よって、両者の主語が異なる場合、従属節の主語は省略されにくい。

日朝両言語で他称詞が、主節で「が」・「이/가 i / ka」格を取る用例は 21 例で、従属節で「が」・「이/가 i / ka」格を取る用例は 17 例ある。これらは、全体(540 例)の 7.0%を占めている。日本語と朝鮮語が助詞「が」と「이/가 i / ka」を取り、主語を明確にしているが、中国語には助詞はない。中国語では、構文上、そしてコンテキストから主語が明確に理解される。この文法現象では日本語、朝鮮語、中国語のいずれの言語でも他称詞が有形を取り、三言語の共通点の一つと言える。

次に、日朝両言語の助詞「は」・「은/는 un/nun」について見ていこう。これらの助詞は名詞を主題化したり、指示対象間の対比の意を表す働きをしたりする。前者は、明示する手法で第三者への指示を強調する働きである。すなわち、話し手が聞き手に第三者の置かれた状況や行動について説明・陳述をすることである。但し、日本語・朝鮮語では無形、中国語では有形の使用パターンを見ると、日朝両言語の主題が省略されている用例も多数見られるが、これについては次節で考察を試みる。

また、「は」・「은/는 un/nun」が対比の意を表す例として、(3)が挙げられる。

(3) ヒジン・女→ジュンサン・男 (ユジン・女 / 姉)

K: 저는 요 우리 언니 처럼 편식도
ce-nun-yo uli enni-chelem phyensik-to
わたしは (助詞) うち 姉 のように 偏食も
안 하구요. 우유도 잘 마시거든요. 근데
anhakuyo. uyu-to cal masiketunyo. kuntey
(否定) します 牛乳もよく 飲みます しかし
우리 언니는 맨날맨날 늦잠 자서
uli enni-nun maynnalmaynnal nuccam ca-se
うち 姉は 毎日毎日 朝寝坊して
지각한다고 엄마한테 혼나구요.
cikakha-ntako emma-hantey honnakuyo.
遅刻すると 母に 叱られます

J: わたしはお姉ちゃんみたいに好き嫌い言わないし、牛乳もちゃんと飲むのよ。でもお姉ちゃんはいつも寝坊して遅刻してママに怒られているんだから。

C: 我 从来 就 没有 像姐姐那样
わたし 今まで (副詞) (否定) 姉のように
偏食过, 我 毎 天 都 按时
偏食したことがある わたし 毎日 (副詞) 時間どおりに
喝 牛奶。可 姐姐 每天早上 都 睡懒觉
飲む 牛乳 しかし 姉 毎朝 (副詞) 朝寝坊する

不 按时 起来, 结果 上学
(しない) 時間どおりに 起きる 結局 登校
老是 迟到 被 妈妈 骂。
いつも 遅刻する (介詞) 母 叱る

(冬のソナタ)

(3)を見ると、日本語文は「わたしは……」文と「お姉ちゃん……」文の二つの文から構成されている。また、朝鮮語文と中国語文も同様に「저는 ce-nun (わたしは) ……」文と「우리 언니는 uli enni-nun (うちのお姉ちゃん) ……」文、「我 wo (わたし) ……」文と「姐姐 jiejie (お姉ちゃん) ……」文の二つの文で構成されている。この二つの文の主語「わたし」と「お姉ちゃん」は主題化されており、且つこの二つの主題は対比されている。このような文において、指示対象の一方の「わたし」あるいは「お姉ちゃん」を省略すると非文になることから、いずれの文においても有形の人称詞を取らなければならない。

三言語とも有形の使用パターンにおいて、日朝両言語で助詞「は」・「은/는 un/nun」が用いられ、指示対象が主題化されたり、対照の文を成したりする用例は 32 例ある。これは、全体(540 例)の 6.9%を占めている。上記の助詞「が」・「이/가 i / ka」そして主節・従属節の役割と同様、この文法項目も日朝中のいずれの言語でも他称詞が有形を取り、三言語の共通性が窺える。

3・3 第三者への話題転換

会話の中で、複数の第三者の話題を扱う場合、三言語とも有形を取る傾向が見られる。一連の会話の中で、一貫して同一人物に対して話題を展開していく際は、主語を省略することができるが、第三者が二人以上の場合、もし第三者の指示を明確にしないと、話の内容が直接に伝わらず、コミュニケーションに支障が生じる恐れがあるからである。(4)は、第三者が複数の場合の一連の会話文である。

(4) K: (スヒョク) 근데 혹시 삼촌 들어왔어?
kntey hoksi samchon tulewasse?
ところで ひょっとして おじさん 戻った
(スンジュン) 아니, 회의도 다 취소했다.
ani, hoyuy-to ta chwisohaysssta.
いいえ 会議も すべて キャンセルした
(…中略…)
(スンジュン) 너 죄이사 가까이 하지 마라.
ne choyisa kakkai haci mala.
お前 チェ理事 仲良く付き合う しないで

- (スヒョク) 무슨 말이야?
musun soliya?
どういふ 話かい
- (スンジュン) **최이사**가 우리 회사 주식을
coyisa-ka uli housa cwusik-ul
チェ理事が うち 会社 株を
좀 많이 갖고 있어.……
com manhi kac-ko isse.
少し たくさん 持っている
- J: (スヒョク)それで、**叔父貴**は戻った?
(スンジュン) まだだ。会議もキャンセルした。
(…中略…)
- (スンジュン) あ、**チェ理事**には近づくなよ。
(スヒョク) どうして?
(スンジュン) **チェ理事**は、うちの株を必要以上に持つ
てる。……
- C: (スヒョク) **舅舅** 回来 了 吗?
おじさん 帰ってくる 〈助詞〉 〈疑問助詞〉
- (スンジュン) 没有, 会议 全部 取消 了。
いいえ 会議 全部 キャンセル 〈助詞〉
(…中略…)
- (スンジュン) 不要 太 接近 **崔理事**。
するな すぎる 近づく チェ理事
- (スヒョク) 为什么?
どうして
- (スンジュン) **崔理事** 现在 拥有 我们 公司
チェ理事 現在 持っている うち 会社
很多 股份。……
たくさん 株
- (パリの恋人)

(4)で、第三者の一人である「叔父貴(ギジュ)」は、スヒョクの叔父で、スンジュンの上司である。この会話文を見ると、前半のギジュに関する話題(中略の部分を含む)から、後半のチェ理事に関する話題へ転換されている。また、(4)の後に続く会話を見ると、チェ理事に関する話題からもう一度ギジュに関する話題へ戻っていることが見られる。(4)のような、複数の第三者の話題を取り上げる一連の会話文は11箇所しかないが、三言語とも有形を取る使用パターンは共通している。

4. 日本語・朝鮮語で無形、中国語で有形の場合

表2に示したように、日本語・朝鮮語で無形であるのに対し、中国語で有形の使用パターンの用例数は、154例(19.8%)

あり、二番目に多く用いられる使用パターンである。

ここでは、日本語と朝鮮語の類似した構文の特徴が、他称詞の省略にどのような影響を及ぼすかについて考察を行う。

まず、同一人物への指示機能について見よう。

- (5) チョンジェ・男→ミヌの母・女(ミヌ・男 / 取引先の職員の母親)

K: **유민우씨**가 제 약혼녀 혜원이를
yuminwussi-ka cey yakhonnye hyeyweni-lul
ユミヌさんが わたしの婚約者 ヘウオンを
사랑한다고 어머님께
salanghan-tako emenim-kkey
愛すると お母様に
말씀드리진 않았나요? 아마
malssumtulicin anhassnayo? ama
申し上げませんでしたか 恐らく
말씀드렸을 겁니다.
malssumtulyess-ul kepnita.
申し上げたでしょう

J: **ミヌさん**ぼくの婚約者のヘウオンを愛しているとお話しされませんでしたか? たぶんお話しされたと思います。

C: **敏石** 没有 和 伯母 讲过 **他** 爱
ミヌ 〈否定〉と おばさん 言ったことがある 彼 愛する
我的未婚妻 慧园 吗? 我 估计
わたしの婚約者 ヘウオン 〈疑問助詞〉 わたし 推測する
他 说过 了。
彼 言ったことがある 〈助詞〉

(夏の香り)

(5)は、二つの文が継続している文で、最初の文と第二の文の主語は同一人物(ミヌ)である。また、最初の文の従属節「ぼくの婚約者のヘウオンを愛している」との主語と主文の主語も同一人物(ミヌ)である。日朝両言語で第二の文の主語と従属節の主語(下線部分)が省略されていないと、中国語で第二の文の主語と従属節の主語(二重取消線)が省略されていると仮定すると次のようになる。

(5) K: **유민우씨**가 제 약혼녀 혜원이를 사랑한다고
ユ・ミヌさんが わたしの婚約者 ヘウオンを 愛すると
민우씨가 어머님께 말씀드리진 않았나요?
ミヌさんが お母様に 申し上げませんでしたか
아마 민우씨가 말씀드렸을 겁니다.
恐らく 민우씨가 申し上げたでしょう

J: **ミヌさん**ぼくの婚約者のヘウオンを愛しているとミヌ

さんがお話しされませんでしたか? たぶん ミヌさん
がお話しされたと思います。

C: 敏右 没有 和 伯母 讲过 他 爱
ミヌ (否定) と おばさん 言ったことがある 彼 愛する
我的未婚妻 慧园 吗? 我 估计
わたしの婚約者 ヘウオン (疑問助詞) わたし 推測する
他 说过 了。
彼 言ったことがある (助詞)

(5)は、日本語文と朝鮮語文の下線部分はそれぞれ従属節の主語と第二の文の主語を復元させたものである。しかし、いずれも文の流れが鈍く、不自然な印象を与えている。これらの主語が省略された(5)の方が日本語文と朝鮮語文としてより自然である。これは、両言語における同一の主語の多用によるものだと考えられる。このような場合、日本語と朝鮮語では、主語の反復を避けるため、第二の文の主語と従属節の主語は省略することができる。一方、中国語文で従属節の主語である「他 ta」が省略されたとすると、「わたしの婚約者のヘウオンを愛している」人は、「敏右 minyou (ミヌ)」でない他の第三者を指す恐れもあることから、従属節の主語が主文の主語と同じでも他称詞を省略しない傾向が強い。このようなことから、日朝両語はコンテキストから従属節の主語を推測することができるが、中国語の場合は、従属節の主語を明示しなければ、コンテキストから判断できず、誤解を与える恐れがあり、指示対象を繰り返して指示する傾向があると考えられる。

(6) K: (チェリン) 참, 스키장엔 왜 갔나요?
cham, sukicang-eyn way kassnayo?
それで スキー場には なぜ 行きましたか
나한테 그런 말
na-hantheyn kulen mal
わたしには そんな 話
없었는데.
epsess-nuntey.
なかったのに

(金次長) 답사차 갔어요. 얘기 안 했어요?
tapsaca kasseyo. yayki an haysseyo?
下見 行きました 話 (否定) しました

J: (チェリン)それでスキー場に行ったんですって? わたしは聞いてなかったけど。

(金次長) ああ、下見ですよ。言ってなかった?

C: (チェリン) 对了, 他去 滑雪场 干什么?
それで 彼 行く スキー場 何をする

他 怎么 没 跟 我
彼 なぜ (否定) に わたし
提起过 呢。

言ったことがある (疑問助詞)

(金次長) 他去 现场 考察。他没
彼 行く 現場 調査 彼 (否定)
跟你 说过 吗?

に あなた 言ったことがある (疑問助詞)

(冬のソナタ)

(6)は第三者 (ミンヒョン) に関するチェリンと金次長の一連の会話で、話し手が交代している用例である。例文のように、話し手が会話の最初に第三者を導入した後、終始同一人物に関する話題で話し手が交代しながら会話が進められる場合、日本語と朝鮮語ではその人物を表す主語を提示せず、省略する傾向が強いのにに対し、中国語では主語が省略されていない。

このように、継続して同一人物を指示する場合もしくは従属節の主語と主文の主語が同一の場合、日本語・朝鮮語と中国語で主語の使用頻度に大きな差が見られる。これが他称詞の使用頻度の差をもたらした要因の一つであると考えられる。日本語・朝鮮語で無形だが、中国語で有形の用例 154 例のうち、同一人物への指示機能の違いによるものは 54 例で全体の 35.1% である。

次に、日本語と朝鮮語の引用を表す文末表現について見よう。

人から聞いた話を引用したり紹介したりする意味を表す文末表現として、日本語では「って」⁷⁾、朝鮮語では「고 하다 ko hata (～と言う)」が挙げられる。

(7) K: (チャンミ) 헤원 아, 왜 이렇게
hyeywen-a, way ilehkey
ヘウオン (助詞) どうして こんなに
힘이 없어? 민우씨 만났어?
him-i epse? minwussi manasse?
元気 ない ミヌさん 会った

(ヘウオン) 헤어지 채.

heyeci cay.
別れる (「ようと言う」の縮約形)

J: (チャンミ) ヘウオン、どうしたの? 元気ないじゃない。ミヌさんにはちゃんと会えた?

(ヘウオン) 別れようって。

C: (チャンミ) 慧园, 怎么 无精打采的。
ヘウオン なぜ 元気がない

见到 敏右 了 吗?
 会える ミヌ (助詞) (疑問助詞)
 (へウオン) 他 说 要 分手。
 彼 言う (助動詞) 別れる
 (夏の香り)

(7)の日本語文と朝鮮語文を見ると、話し手(へウオン)は第三者(ミヌ)が言った内容「別れよう」、「헤어지자 heyecica (別れよう)」を引用して聞き手(チャンミ)に伝えている。「別れようって」は、「ミヌさんはわたしに別れようって言うんだ」もしくは「わたしはミヌさんに別れようって言われたんだ」とも読み取ることができるが、「別れること」を発話した人は第三者のミヌである。このように、これらの終助詞は、「第三者がこのように言った」という行為を表しているため、他称詞の省略を促していると思われる。一方、中国語文に見られるように、中国語は日本語・朝鮮語ほど助詞が発達しておらず、その代わりに「说 shuo (言う)」や「讲 jiang (言う、話す)」など具体的な語彙で、言うという行為を表す必要がある。ただし、これらの動詞は第三者の「言うという行為」を表すとは限定できないため、その動作主としての他称詞も省略しにくくなる。この文末表現の働きで、日本語・朝鮮語では他称詞が省略されているのに、中国語では省略されていない例は154例のうち、10例(6.5%)しかないが、他称詞の使用頻度の差異をもたらした要因の一つであろう。

以上、他称詞が主語の場合の使用状況について見てきた。次に、目的語の場合の使用実態はどうだろうか。日本語文と朝鮮語文でいう目的語を、中国語では主に二種類の形式で表すことができる。一つは他動詞の後に目的語がつく形で、もう一つは「介詞+人称詞」の形である⁸⁾。(8)は、前者の場合の一例である。

(8) K: (ミヌ) 정재씨도 헤원씨
 cengcayssi-to hyeywenssi
 チョンジェさんもへウオンさん
 사랑하는 사람이잖아요?
 salanghanun salamicanhayo?
 愛する 人でしょう
 (チョンジェ) 사랑하니까 말하려고
 salangha-nikka malhalyenun
 愛するから 話そうとする
 겁니다.
 kepnita.
 のです

J: (ミヌ) チョンジェさんもへウオンさんを愛しているでしょう?

(チョンジェ) 愛しているから話すんです。
 C: (ミヌ) 郑在 你 不 也
 チョンジェ あなた でない も
 爱着 慧园 吗?
 愛している へウオン (疑問助詞)
 (チョンジェ) 就因为 我 爱 她,
 のために わたし 愛する 彼女
 我 才 要 说。
 わたし (副詞) (助動詞) 言う
 (夏の香り)

日本語文と朝鮮語文を見ると、「愛する」の目的語「へウオン」を、「헤원씨를 hyeywen-ssi-lul (へウオンさんを)」が省略されている。そしてこの例文の前の対話では、省略された同じ他称詞が目的語として表れている。日本語文と朝鮮語文では目的語として同一人物への指示が繰り返される場合、後の人称詞は反復を避け、省略することができる。この例でも、前の文で目的語「へウオン」、「헤원씨 hyeywen-ssi (へウオンさん)」が既に導入されているため、目的語は省略することができる。このように、日朝両言語では指示対象人物を特別に取り上げ強調しようとする限り、人称詞を明記しない特徴があると言えるだろう。これに対し、中国語文では目的語「她 ta」が省略することができない。日本語、朝鮮語と異なる言語体系を成している中国語では、他動詞自体が目的語を必要とするものが数多く存在する。(8)で挙げた動詞「爱 ai (愛する)」以外にも「等 deng (待つ)」や「守护 shouhu (守る)」などの他動詞が目的語を必要とする傾向が非常に高い。これらの動詞は、目的語(ここでは他称詞)との繋がりが日本語、朝鮮語より強く、目的語を省略すると非文になることもある。(8)の中国語文で、目的語「她 ta」を省略した場合、「我爱 woai (わたし愛する)」のみとなり、文が成立しない。このように、動詞における目的語の必要性の相違により、日本語・朝鮮語では他称詞が無形だが、中国語では他称詞が有形である用例は34例で、全体(154例)の22.1%を占めている。以上、日本語・朝鮮語では無形だが、中国語で有形の使用パターンについて、文の構造的用法の角度から述べた。この使用パターンにおける主な要因をまとめると、同一人物への反復指示の頻度が異なること、第三者の発話内容への引用・伝達表現が異なること、そして動詞における目的語の必要性が異なること、の三つである。

5. 考察及び今後の課題

本稿では、日本語、朝鮮語、中国語の会話文における他称詞の使用実態を調べ、構文論的立場から三言語における他称

詞使用の共通点及び相違点を生み出した要因について分析を行った。まず、三言語の他称詞の使用実態を見ると、中国語での使用頻度が最も高く、次に朝鮮語、日本語の順になっていることが分かる。なお、日朝両言語の他称詞の使用頻度には殆ど差がなく、数値の上では両言語の類似性が窺える。

また、他称詞が有形か無形かによっていくつかのパターンに分けると、三言語とも有形の使用パターンの比率が最も高く、日本語・朝鮮語で無形だが中国語では有形の使用パターンの比率が二番目に高い。まず前者の使用パターンにおいて、未知要素の導入の要因は三言語とも共通する点であると言える。また、日朝両言語は名詞の後に付く助詞が発達しており、助詞を用いることで指示対象を焦点化したり話題化したりして何らかの意味を加えている。言い換えれば、話し手が中立的な立場で対象を指示する際には、助詞の使用が避けられるとともに他称詞も省略されると言える。次に後者の使用パターンにおいて、日朝両言語の他称詞への省略を促すと考えられる要因として、同一人物への指示機能、他動詞における目的語の必要性の低さ、第三者が話者であることを示す引用表現などが挙げられる。特に、複文や一区切りの会話の中で同一人物への指示が繰り返される時、日朝両言語では、コンテキストによる理解から指示対象への指示を反復しない傾向があるのに対し、中国語では、指示対象を明示しないとコンテキストから理解できない恐れがあり、指示対象を繰り返して指示する傾向がある。

また、他称詞特に三人称代名詞の指示対象に対する制限の相違も三言語の他称詞の相違点を明らかにする上で欠かせない要因であるが、これに関する考察は紙幅の関係上別稿に譲りたい。

注

- 1 登場人物の年齢、社会的地位、人間関係及びストーリーの展開などを考慮に入れて、これらの作品と回を選んだ。また、これらの回は、主人公同士の会話場面だけでなくより多くの人間関係のデータを取ることを考慮に入れて選択したものである。
- 2 朝鮮語のローマ字表記は Yele 式表記法による。中国語のローマ字表記はピンイン(拼音)表記法による(以下同様)。
- 3 「その他」には、「みんな」、「本人」などが分類されている。
- 4 宋(2011)によると、三言語における自称詞の出現数はそれぞれ 495 例、800 例、1341 例で、対称詞の出現数はそれぞれ 419 例、612 例、1210 例で、使用頻度に大きな差があることが分かる。

- 5 助詞の分類は、益岡・田窪(1998)を参考にした。
- 6 朝鮮語が原作言語であるため、例文においては朝鮮語、日本語、中国語の順に示す。なお、例文の中で、「K」は朝鮮語を、「J」は日本語を、「C」は中国語を表している(以下同様)。また、例文の中で話し手、聞き手、第三者の属性及び人間関係は次のような順番で示す(以下同様)。話し手・性別→聞き手・性別(第三者の名前・性別 / 話し手から見た第三者との関係)
- 7 「…って言ってます」や「…ってことです」なども含まれている。
- 8 なお、中国語で、名詞の前につき、動詞との関係を示す前置詞を「介詞」と言う。

参考文献

- 林炫情・深見兼孝：他称詞と述語にみられる待遇法に関する日韓対照研究，国際協力研究誌（広島大学大学院国際協力研究科），10(2)，13-27，2004。
- 上原聡：言葉の視点と日英語比較，言語の多様性と規則性，第6回公開講座（東北大学大学院国際文化研究科），1999。
- 久野暉：談話の文法，大修館書店，東京，1996。
- 讃井唯允：日本語・中国語における人称代名詞の生起とその条件，現代中国語文法研究論集（大東文化大学語学教育研究所10周年記念），37-69，1992。
- 宋善花：モダリティと人称詞に関する研究—日本語、朝鮮語、中国語の対照の観点から—，東北大学国際文化研究，17，165-174，2011。
- 田窪行則・木村英樹：中国語、日本語、英語、フランス語における三人称代名詞の対照研究，日本語と中国語の対照研究論文集，くろしお出版，137-152，2000。
- 仁田義雄：日本語のモダリティと人称，ひつじ書房，神戸，1999。

謝辞

本稿は、2010年度中国江蘇省教育庁高校哲学社会科学基金项目（No.2010SJD740011）の補助を受けて行われている。